

## 《現代文のキーワード》

### 言語・記号

混沌（カオス） 秩序（コスモス）

- ・混沌としていた状態が言語によって秩序を持った状態に整理された。
  - ・混沌は「いろいろな可能性が広がっている」というプラスの面もある。
- 恣意しい（恣意性・恣意的）
- ・気ままで自分勝手なこと。

例 手続きの方法が社長の恣意的判断で変更された。

差異（差異性） 同一性・均質性

- ・他との違い

例 「恋」という語の意味が「愛」という語の意味との差異から明確になる。

記号

- ・狭義 ある内容を示す文字・符号 広義 何らかの意味を持つ者全般を指す。

例 ある会社のチョコレートだけ売れた。秘密は人気歌手の CM。消費者は人気歌手のイメージを消費している。実体を消費する以上に記号を消費している。

- ・記号は世界を分節してある秩序を形成し、その秩序の中で他の記号との差異によって意味を持つ。

体系（有機的に関連したまとまり） 〓 システム（制度、組織）

- ・「差異の体系」 〓 「体系」と置き換える

多義（多義的・多義性） 〓 義（二義的・一義性）

- ・多義 一つの語が多くの意味を持つ

⇔

- ・一義 意味が一つだけ。それ以外に意味がない。

例 「ちよっと」は一義的に「わずかな量」だと思っていたが「ちよっとした財産」は「かなりの財産」となるので言葉は多義的である。

## コンテキスト(文脈)

例 言葉は本来、多義的であるが、一義的な意味ができるとすれば前後のコンテキスト(文脈)に依存している。

## レトリック(修辞法)

例 比喻を含め言葉を飾ることで感性に訴える表現全般をレトリックという。

## アイロニー(皮肉・反語)

シニカル (皮肉的な態度・冷笑的)

反語 (言いたいこととは反対のことを疑問で述べる。皮肉)

直喩(明喩)「みたい」「ようだ」「どし」

隱喩(暗喩・メタファー) 比喻であることを明示しない表現。

例 彼女は薔薇だ。

ウィット(気の利いた会話や文章などを生み出す才知。機知)

エスプリ(「フランス人的な」機知)

諧謔(しゃれや冗談。ユーモア)

言語の身体性(言葉は身体に根ざしたものである)

例 身体性に基づいていないスピーチ

(身体的な実感や迫力を伴わないスピーチ)

## 自己・心理

アイデンティティー(自分らしさ・自分の個性・自分が自分であることの証拠)

・自己同一性

例 小説を書くことが私のアイデンティティーだ。

自我(「自分」という存在を意識する心の動き)

例 一歳の息子は最近、自我が芽生えてきた。

近代的自我(「他の誰とも異なる自分」という存在を意識する心の動き)

ナルシシズム(自己に対する過度の愛着・ナルシスト)

エディプス・コンプレックス(幼少期の男の子が無意識に父親を憎み母親と結ばれたい

と願う感情)

アンビヴァレンス (二つの対象に対して相反する感情を同時に持つこと)

例 受験勉強に取り組むA子は彼氏に「会いたい」けど「会いたくない」というアンビヴァレントな感情を抱く。

エゴイズム (自分の利益だけを求める考え方)

ジレンマ (二つの選択肢の間でどちらにすべきか悩んでいる状態)

ダブルバインド (同じ人やものから二つの相反するメッセージを繰り返し受け取り身動きがとれなくなってしまう状態) 二重拘束

例 うちの母は自分でやりなさいと言ったりなんでも言っておねと言ったりでダブルバインドだよ。

バイアス (自分の中にある情報や考え方が原因で偏った見方で物事を捉えること)

## 身体

身体の知 (意識によって制御されていない「からだ」自体の知性)

有機的 (具体的) 身体全体が一つのまとまりとして捉えられること。

例 身体全体の有機的つながりの中で自然と右手が該当箇所が届くのである。

身分け (身体で理解すること)

言分け (言葉で理解すること)

例 言分けは身分けに及ばない。

間身体性 (ひとつの身体は他の身体との交流の中で存在・行動していると言うこと)

例 一つの身体は他者のあり方について知ることによって自らの身体について把握し、考える

身体拡張・身体の外部位 (もの・道具は人間の身体機能の外部への拡張・外部化したものである)

身体の歴史化 (身体や身体動作には社会や文化の歴史も表れている)

身体感覚の伸縮 (感覚としての身体は伸縮する) ← 例 杖になれてきたとき

## 文化・芸術

文化 (カルチャー) 人間の精神活動によって生み出されたもの。

例 中尊寺など平泉の文化遺産が世界遺産に登録された。

文明（シビリゼーション） 発達した技術やそれによって生み出されたもの。

例 明治時代に入ってきた西洋文明は日本を大きく変えた。

クレオール（複数の文化が混ざり合って新しく生まれた文化）

例 文化相対主義の観点からクレオールは尊重されるべきである。

シンメトリー（左右対称。対義語 アシンメトリー）

オリエンタリズム（アジア・アフリカに対するヨーロッパ人の見方）

サブカルチャー（大衆や若者の間で新しく生まれる非主流文化）

例 アニメはサブカルチャーの域を超えた。

テキスト（論）（芸術作品は作者の意図ではなく鑑賞する人の解釈にゆだねられるものである）

例 この絵を作者の意図から離れてテキストとしてみてみよう。

カタルシス（浄化） 抑圧された感情をすっきりさせること。

例 泣きたいときに泣くとカタルシスになる。

## 哲学

弁証法（ある意見に反対の意見をぶつけより次元の高い考えを生み出すやり方）

アウフヘーベン（止揚） 弁証法によって矛盾し合う考え方が高次元で統合されること。

例 「これは三角形である」「いや、これは円だ」←「円すいである」

唯物論（世界は全て物質からできている）

唯心論（世界は人間の心・意識が生み出している） 観念論

ロゴス（論理）

パトス（感情・受動的）

アイデア（現実とは仮の姿で頭の中にだけ存在する本当の姿のこと・本質）

実存（目の前に実際に存在している者）

実存主義（人間というアイデアがあるのではなく実存として捉えること）

ニヒリズム（虚無主義） それまで信じられてきた価値や存在を否定する考え方

## 医学・生命・科学

物心二元論・心身二元論（世界は精神と物体という二つから成り立つという考え方）  
パラダイム（根本的な枠組み）

例 科学における枠組みをパラダイムシフト（パラダイムの転換）と呼ぶ。

脳死（脳全体の機能が停止。元に戻らないことが確定）

例 脳死は一律に人の死とされている

人の死は社会的合意を得る必要がある

### 臓器移植

臓器移植法（1997）

改正臓器移植法（2009）

移植の要件

本人と家族の双方の同意

本人の拒否がなければ家族の

同意のみ

死の定義

不可

家族の同意があれば可

十五歳未満

臓器移植するばあいのみ

脳死Ⅱ死

への移植

脳死を死とする

尊厳死（治らない患者が延命措置を無益と考えできるだけ自然に死を迎えること）

安楽死（死が迫った患者の苦痛を和らげ安らかな死を迎えさせようとする事）

例 重視されるのは患者本人に死に方を選ぶ権利があるという考え方が根底にある。  
したがって、患者本人が意識不明の時にその意思をどう確認するか。

遺伝子診断（将来や次の世代に病気や障害を引き起こす可能性のある遺伝子を検査する）

出生前診断 妊娠中に胎児の形態を調査

着床前診断 体外受精の際、子宮に移植する前の受精卵を調査

遺伝子治療（異常な遺伝子を持つことで不具合の生じている細胞を修復する治療）

インフォームド・コンセント（医師からの説明《informed》に納得した上で同意する  
《consent》）1)。